

IV 不適切な放送に至った背景と東海テレビの再発防止策

東海テレビの検証委員会は本件放送を行った制作現場がどのようなものであったかについて、概略、以下のように記している。

- 本件放送の総スタッフ中、社員は十数人で、82パーセントが外部スタッフだった。全体に経験の浅い者の割合が高かった。
- 番組制作費は過去約3年間で9パーセント削減された。
- 制作スタッフの人数がぎりぎり、ひとりが担当する仕事の量も種類も多かった。朝7時の出勤から放送までの3時間は、その日に使うネタと番組進行の決定、ボード、フリップ、写真、テロップの準備等で多忙をきわめ、これがスタッフ間のコミュニケーション不足、チェック体制の低下につながった。
- 制作スタッフは「この人数でこれだけの量の生情報番組を作るのは無理」「いつもぎりぎりオンエアに間に合わせている」と感じていたと言い、制作現場は「スタッフ同士、顔も名前もわからない希薄な関係」だったと振り返っている。
- 視聴者から指摘された番組における間違い件数は、2009年から倍増し、2010年にはさらにその2倍になった。
- こうした余裕のない制作環境は、「組織のスリム化・業務の効率化による企業体質の強化」という経営計画に沿って生じたものであった。

*

同局の検証委員会はこれら制作現場の問題点を「番組制作上の責任体制とチェック体制の不備」「コミュニケーション不足が招いたルールの不徹底」「放送倫理や社会常識の欠如」として総括し、以下のような自主・自律的な再発防止策を提起している。

- ①番組制作過程の見直し・再確認等の【番組制作作業の総点検】
- ②制作スタッフの当事者意識向上を目指す【情報共有のためのスタッフミーティング】
- ③制作会社や外部スタッフの責任や役割を明確にする【契約の再点検】
- ④第三者を委員長とし、再発防止策の工程や推移を監督する【「再生委員会」の設置】
- ⑤放送活動への提言等を行う外部の有識者による【「オンブズ東海」(仮称)の設置】
- ⑥番組の質、制作予算、人員配置、収支予算等、全面的な【経営計画の見直し】